

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住吉区
学校名	大阪市立大空小学校
学校長名	清水 高志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大空小学校では、第6学年 39名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は、大阪市より5ポイント、全国より6.7ポイント下回った。また、平均無回答率においても、大阪市より2.8ポイント、全国より1.9ポイント高い結果となった。算数科の平均正答率は、大阪市より7ポイント、全国より8.4ポイント下回った。また、平均無回答率が、大阪市より5.3ポイント、全国より5.1ポイント高い結果となり、両教科ともに平均無回答率が高かったことが、正答率低下の要因であると考えられる。

昨年度の対全国比では、国語科の平均正答率が1.00(R5)から0.90(R6)、算数科で1.06(R5)から0.87(R6)と両教科とも低下している。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

・「話す聞く」領域で全国平均正答率との差が11.9ポイント、「書く」領域で10.7ポイント、「読む」領域は9.2ポイントと大きく下回る結果となった。また、昨年度の対全国比と比較しても、「言葉の特徴」領域以外、-4.8～-11.9ポイントと大きく下回っている。以上から基礎基本の定着が喫緊の課題であることが明白で、朝の学習の時間の確保、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究授業の充実と授業改善、ICTの活用促進等の取組をさらに進めていく必要がある。

[算数]

・「数と計算」領域で全国平均正答率との差が7ポイント、「図形」領域で8.6ポイント、「変化と関係」領域で9ポイント、「データの活用」領域で11.8ポイントと全ての領域で大きく下回る結果となった。基礎基本の定着が喫緊の課題であり、昨年度に引き続き「学力向上支援チーム事業」を活用した、スクールアドバイザーによる効果検証や授業改善に向けた校内研修の実施、学びコラボレーターや学びサポートによる授業支援及び放課後学習の運営等に注力する必要がある。

質問調査より

・「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で「当てはまる」と回答した割合は、全国平均比で0.2ポイント上回り、市平均比では7.1ポイント下回っている。一方、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的回答率は全国平均比、大阪市平均比とも7.2ポイント下回っている。また、「いじめは、どんな理由があつてもいけないだと思いますか」の項目で「当てはまる」と回答した割合は、全国平均比で18ポイント、大阪市平均比で17.3ポイント大きく下回る結果となった。

・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目で肯定的な回答をした割合が、全国平均比で5ポイント、大阪市平均比で3.4ポイント上回っている。上記の数値結果より、チーム学校として児童一人ひとりに寄り添った指導を基盤として、「安全・安心な教育環境の実現」に焦点を当てた道徳教育の充実及び人権を尊重する教育の推進が今後の課題である。

・「授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役に立つと思いますか」の項目に対し、大阪市平均比で国語科は6.3ポイント、算数科で6.2ポイント上回る肯定的な回答が多かった。児童が授業の大切さを感じている思いを教育活動に反映させられるよう、ICTの効果的な活用や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいく。

今後の取組(アクションプラン)

国語科・算数科ともに平均正答率が全国や大阪市の平均比を大きく下回った。この厳しい現状を踏まえ、これまでの教育課程を見直し、学力向上、校内研究・研修体制の充実、道徳・人権教育の推進について以下の通り、重点的に取組を進めていく。

①「学力向上支援チーム事業」や「ブロック化による学校支援事業」を活用し、学びコラボレーターによる児童へのきめ細やかな支援と若手教員の育成、放課後学習の充実に取り組む。

②スクールアドバイザーによる効果検証や授業改善に向けた校内研修を継続して実施し、教員の授業力向上に繋げる。

③「主体的・対話的で深い学び」「ICTの効果的な活用」「道徳・人権教育の推進」に焦点を当て、大阪市総合教育センターと連携した研究・研修体制の充実を図り、特に若手教員の指導力向上に取り組む。

④夕会（児童理解会議）や職員会議において、支援や配慮が必要な児童等の児童理解を深め、課題解決の方策について共通理解を図る。

【 全体の概要 】

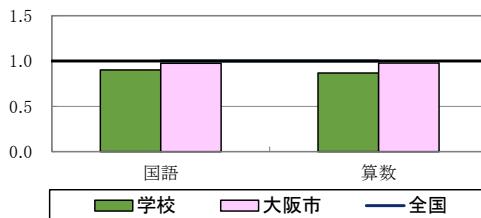
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	61	55
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

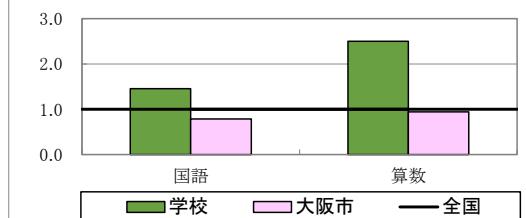
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	6.1	8.5
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



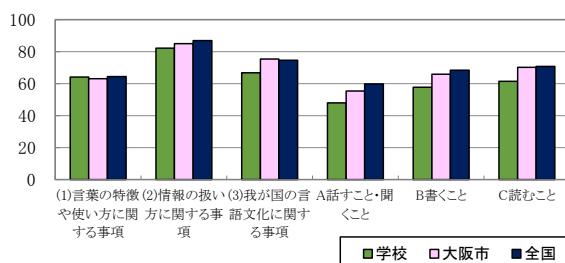
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	64.1	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	82.1	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	66.7	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	47.9	55.3	59.8
B 書くこと	2	57.7	65.9	68.4
C 読むこと	3	61.5	70.1	70.7

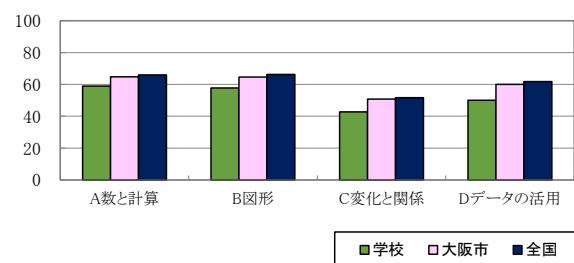
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	59.0	64.8	66.0
B 図形	4	57.7	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	42.7	50.8	51.7
D データの活用	4	50.0	60.0	61.8

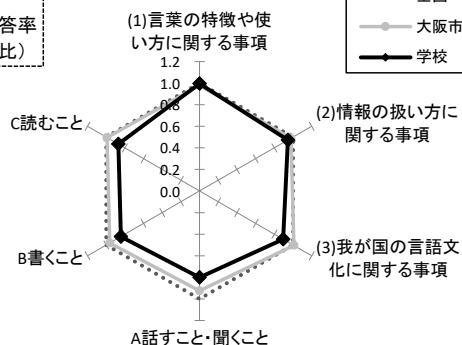
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)

